

大豊町の概要

位置 東経133度37分 北緯33度56分
面積 320.54平方杆 東西 32杆
南北 28杆 部落数 86
人口 10,211 男 4,851 女 5,360
世帯数 3,475(2月末日現在住民基本台帳調)

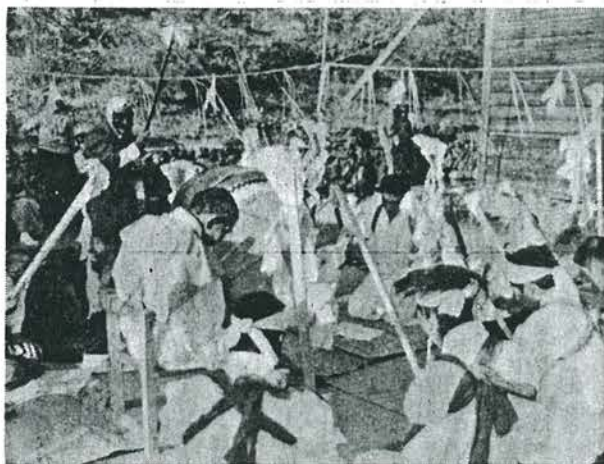


昭和55年3月10日発行

全世帯配布

編集 館報大豊編集委員会
発行 大豊町中央公民館
印刷 高知印刷株式会社

岩原 神楽、国の重要無形民俗文化財に指定さる 永淵 (土佐の神楽として9件一括指定)



これを機に
小学生中心に
後継者養成

去る一月二十八日官報発表。ただでの保存は仲々難かし
示によって、土佐の神楽い面もある、小学校な
(大豊町の岩原・永淵神楽)き、町の文化財として長く
など高知県の九つの神楽)保存して行き度いと考へて
が文化庁から国の重要無形 指定を受けた県下の各町
文化財として指定され去る 村では、県文化振興課のき
二月一日東京の国立教育会 知市において関係町村によ
館で指定書の交付がなされ 当協議会の会長には、橋原
た。これを受けて、岩原及 りの町長、副会長に、永淵
び永淵の地元神楽保存会 連日練習し町の公民館で
は、これを機会に一そう後 初めの発表も行なわれま
継者の育成につとめると した。
にも、先祖から残された 一方岩原部落では重文指
文化遺産を後世に残し度 定を記念し、岩原神社の春
いと張切っている、町も の大祭に神楽を披露する
保会とも協議し今後は記録 今から準備をしています。
保存等にもつとめ、一部落



永淵神楽保存会の子供たち

重文指定を記念して
土佐の神楽展も
高知市民図書館で

今回土佐の神楽が国の重 重保存会長の指導で同部落
要文化財の指定を受けたこ の小学生を中心とした6名
とを記念して、土佐民俗学 子供達地区の公民館で
会と高知市民図書館の共催 連日練習し町の公民館で
による、土佐の神楽展が開 初めの発表も行なわれま
かれ、本町の岩原からは、 した。
神楽の面や舞に使用される 一方岩原部落では重文指
用具類など又永淵からも面 定を記念し、岩原神社の春
や獅子頭などが出品されま の大祭に神楽を披露する
した。 今から準備をしています。
なお永淵部落では北村守



西峰中学ハンドボール部に 記念品贈られる 土佐本山ライオンズクラブより

三月二十六日、土佐本山
ライオンズクラブ(理事長
山田清彦)では管内での
善行や各方面に亘って活
躍の著しかった団体等に記
念品を贈呈してその功績を
たたえているが今回本町の
西峰中学校女子ハンドボ
ール部が地域の小規模校にも
かかわらず、全員が互に助
け合い励ましあって和の精
神で、高知県で優勝し惜し
くも四国大会では敗退した
が同ライオンズクラブで
は、県下優勝に至るまでの
過程を重視し、その功績は
まことに顕著なものがある
と認め、これから進学や就
職しても、今までの精神を
きたこの精神を忘れること
なく頑張っていきたいとの
願いをこめて記念品が贈呈
された。



西峰中学ハンドボール部員

また中学を卒業し新たに
社会へ出て行く子供達に社
会の荒波にもまれても、郷
土でつちかかった強い精神力
で、さすがは郷土の出身者
した。

農業委員の選挙 投票日は3月23日

私達になじみ深い大豊町
農業委員会は、農業の生産
力や合理化を強めて、農民
の地位向上をはかるための
ものですが、その現職の委
員は総員二十三人です。そ
のうちの八人は、町議会が五
人、農業協同組合が二人、
農業共済組合が一人、それ
ぞれ推薦した委員と農民が
直接選挙によって選ぶ委員
十五人とからなっています。

この委員の任期は三年で
三月三十日までの任期が満
了するため、選挙すること
になりました。

一、選挙日程など
町選挙管理委員会では、
去る二月十四日委員会を開
いて、次のように決めまし
た。

(一) 選挙期日(投票日)
三月二十三日(日曜)

(二) 告示日
三月十六日(日曜)

(三) 開票日時及び場所
三月二十三日午後八時
から大豊町中央公民館
で行ないます。

二、選挙権と被選挙権
若十の例外を別として、
選挙権のある者は同時に被
選挙権もありますが、それ
は概略次のとおりです。

(一) 大豊町に住所を有す
ること。

(二) 年令満二十才以上で
あること。

(三) 農地を十アール以上
耕作していること。

四、耕作の業務を営む者
の親族またはその配偶
者、この場合は、年間
六十日以上耕作してい
ることを要します。

三、選挙権と被選挙権の失
格者

一、選挙人名簿は、毎年
一月一日現在によって、前
記二の(一)から(四)までの有資
格者からの申告をまっして調
製し、三月三十一日に確定
して以後一年間据置かれ
ることになっています。

今回の選挙には五十四年
一月一日現在によって調整
した選挙人名簿を使用しま
す。

そのためこの名簿に登録
と云われるよう努力して立
派な社会人となつてほしい
と、記念品が贈られた。

西峰中学校は校長先生
が、また、新就職者は大杉
中の校長先生が代理で受け
取り、西峰中の校長先生か
らは、子供達の日頃のスポ
ーツを通じての活躍がみと
められ、まことに嬉しい。
心から感謝し今後スポー
ツを通じ、互に協力し合え
る人間関係を育てるとも
に社会に役立つ立派な子供
達を育てたいとの感謝の言
葉があり、大杉中の永森校
長先生も
土佐本山
ライオン
ズクラブ
の方々の
気持を子
供達に伝
え、供進
に伝えま
すとの
謝辞があ
り、又
町を代表
して小笠
原助役さ
んより御
礼の言葉
がのべら
れ、記念
品の贈呈
式が終了
した。

禁治産者や一定の犯罪に
よって選挙権及び被選挙権
を失格又は停止されるもの
がありますが、これはまれ
なことですので、ここでは
説明をはぶきます。

四、選挙人名簿
大豊町農業委員会委員選
挙人名簿に登録されてない
と例外を除いて選挙権及び
被選挙権を行使することは
できません。

この選挙人名簿は、毎年
一月一日現在によって、前
記二の(一)から(四)までの有資
格者からの申告をまっして調
製し、三月三十一日に確定
して以後一年間据置かれ
ることになっています。

今回の選挙には五十四年
一月一日現在によって調整
した選挙人名簿を使用しま
す。

そのためこの名簿に登録
と云われるよう努力して立
派な社会人となつてほしい
と、記念品が贈られた。

西峰中学校は校長先生
が、また、新就職者は大杉
中の校長先生が代理で受け
取り、西峰中の校長先生か
らは、子供達の日頃のスポ
ーツを通じての活躍がみと
められ、まことに嬉しい。
心から感謝し今後スポー
ツを通じ、互に協力し合え
る人間関係を育てるとも
に社会に役立つ立派な子供
達を育てたいとの感謝の言
葉があり、大杉中の永森校
長先生も
土佐本山
ライオン
ズクラブ
の方々の
気持を子
供達に伝
え、供進
に伝えま
すとの
謝辞があ
り、又
町を代表
して小笠
原助役さ
んより御
礼の言葉
がのべら
れ、記念
品の贈呈
式が終了
した。

五、良識ある投票
投票に当っては、この選
挙の重要性をしっかりとみし
め、よくみ、よくきき、よ
く考えて自らの力で判断
し、ルールを守り絶対に違
反をしないようにし、全員
の良識ある投票を期待しま
す。

有権者の方々の積極的な
投票参加を特に強く願っ
てやみません。

(大豊町選挙
管理委員会)

昨日おじいさんの田んぼへお父さんお母さんとおじいさん姉ちゃんぼうくの五人で行きました。

初めはいねかりをするのです。ぼうくはいねかりははじめてです。むねがわくわくしました。「ようかるろうかあ」と思いました。下の田んぼからかります。お父さんから方方を習いました。初めはうまくきれなかったのでお父さんみたいに速くかれたらいいなあ、と思いました。それでお姉ちゃん

んがたばねます。ぼうくはばねたいね運びます。おじいさんが竹にかけるのです。ぼうくは一輪車にのっていき積みました。車を走らせて行くと、穴に入ってしまった。ぼうくは思いました。でも動かしませんでした。でも動かしません。今度は後へもどきまざって来ました。方方と変えて行きました。重たいなあ、と思いつきまたいっしょうけんめい頑張りました。おじいさんの所へ着いて前落しました。全

なくなっていました。ぼくはうれしくなつてわくわくしながらかっていたし、もうちよっとの時に、小指をかまでいねといっしょにグサツと切りました。

お父さんが指をおさえてくれました。血はあとからあとからできます。ぼくはいたくていたくて泣きました。でもがまんをしました。お母さんがかもぎをつけてタオルを切つてまいてくれました。お父さんが、

奥の壁に「うんこ」が貼られていた。うんこが一輪とも下へ行くのを待ち上げる時に力がいらいます。何回も続けていると持つ所にすねがあたっていたのです。終わりに近づいた時、手の親指に水ぶくれができているのがさけたのでいたくていたくてたまりませんでした。ぼくはどうしてけばよかったらいいですか？　と思います。でもよししょうけんめいやまし

た。そしてごはんを食べました。今度は、上の田んぼへ行っているかいです。なんだかお姉ちゃんと競そうしているみたいになりました。どんどんかいてみると朝のうちよりずっとかるのが速い、とつて、上が

優秀賞
栄ある受賞

東豐永小4年

永森清司君



部おろすと力がぬけてすぐには力がはいりませんでした。今度はお姉ちゃんと変わりました。よくその間に落とす穴をつくりました。五つも作りました。穴の上に木をおきわらのくずをのせて作りました。よく早くだれか入らんろうか。入らざうたら入るように入れてこよう。と思いましたが、まだ入らんろうか、まだ入らんろうかと思つていゝ間にすんでしまいました。小指半分切つていました。切り口がずつきといたみます。しばらくしておじいさん達が下りてきました。ちよつと休んでからまた上の田んぼへ行きましました。よくも指のいたみも止まったのでいっしょに上がりました。

またよくは一輪車で運びお姉ちゃんがいねたけをわたり、おじいさんがける役目です。一輪車にいっぱい積んで運びます。力を入

▽小砂丘賢とは△
郷土の生んだ生活綴方教育の先駆者「小砂丘忠義（大豊町津家出身）『先生を顕彰』、県内小、中学校の児童より募集した作品の中から優秀作品に対して贈られる賞です。全国的にも高く評価されています。

佳作に穴内中の
（二年）高橋真智子さん
（三年）国沢 由美さん

— 第30回こども県展 —



都築洋子さん

- ▼久寿軒（５年）西村恵美
- ▼豊永（１年）岡崎 保義
- （２年）森田公一、上村優佳、吉田昌弘（３年）上村真知子、尾藤 隆行、中西 泰、森本徳仁（４年）岩本 あゆみ
- ▼大田口（２年）上村美穂（３年）山中和彦（４年）石川一博
- ▼東豊永（３年）川崎稔
- ▼西峰（５年）小笠原佐知子

西村恵美さん

以上の方々が受賞しました第30回のこのことも県には応募総数は十二万四千点でその中から選ばれました。入賞された方に心から御喜び申し上げます。

毛筆書字の部

特選に

▼大田口小（４年）

三浦亜紀さん。

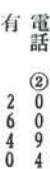
旧立川番所書院

（通称立川御殿）

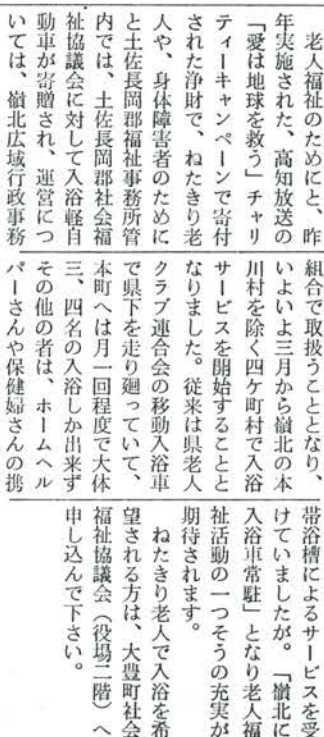
55年度から改修計画

屋根替えの茅あつめ

茅の情報をお知らせ下さい。

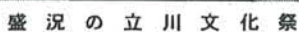


社会福祉協議会



立川地区文化祭

立川地区公民館（館長小笠原時盛）立川小学校（校長高橋正）立川老人クラブ（会長永野茂茂）地区の婦人会の共催で、第一回立川地区文化祭が去る三月二日、住民自慢の民具、古文書置



——本年度蕨生産目標216トンの必達期す——



大会であいさつする町長

個人の部	徳弘晴男 (川口)
団体の部	大砂子彌實改善グループ 町長賞
北町喜富	(日浦)
丁町菅広	(永湊)
松浦都富	(黒石)
小笠原茂	(八畝)
西岡盛重	(本村)
上村賀彦	(下桃原)
振興協議会長長賞	
白石明徳	(庵谷)
門田美雪	(大滝)
都築芳計	(大久保)
大石信正	(久寿軒)
小石一幸	(内穴三)
桑名幸雄	(石堂)
農協組合長賞	
徳弘満穂	(川口南)
秋山精子	(西寺内)

渡辺和平（川井）
上村賢正（連火）
釣井徳一（久寿軒）

大会宣言及びスローガン

最近の農業は、生産資材の高騰や労働力不足、さらには、農産物の輸入攻勢など誠にきびしいものがある。

蚕糸業においても例外ではないが、繭は全国的にも依然として大幅に不足しており、繭の増産が緊急課題となっている。

このため、国、県においても、積極的な振興施策を講じているが、当局においては、蚕登は重要な主幹作

る以外に途はない。
よって、これが実現のため、国ならびに関係機関に対し、積極的に働きかけるとともに、さらに決意を新たに収益性の高い、もうかかせる蚕登経営を確立して、農家所得の向上と、併せて、繭の生産増強にまい進することをここに宣言する。

- 一、基準糸価の大幅値上げの実現をはかるう。
- 一、桑園の土づくりで反収を増大しよう。
- 一、消毒の徹底と病菌の隔離で蚕作を安定しよう。
- 一、上族改善と選繭の徹底で繭作を上しよう。
- 一、養蚕後継者の育成をはかるう。

目として、農家経済に大きく寄与しており、関係者致総力のもとに、繭の増産拡大と、経営の合理化、品質の向上に全力を傾注し、これが振興を強力に推進している。

しかるに、近年における繭価格の低迷は、農家の生産意欲の減退を助長し、繭の増産は極めて困難な状況にある。

かかる情勢の中で、急速に繭の増産をはかるには、基準糸繭の大幅値上げや、輸入規制の強化など、緊急に増産と直結した生産対策を強力に推進し、生産

都築貫一郎

最近政府職員の空出張や
公同するみの派手な贈答
品、そして交際費の使いか
た等が社会の指弊を浴びて
いるとき、私は嘗て高知
県教育委員会会長（鶴藤村
製糸社長）故、坂本惣平氏
に訓えられたことを思い出
す。

成年の夏、氏から貰った
葉書の最後に「中元の時季
になりました。『物薄而情
厚』という言葉を強く思い
ます」と添書がしてあっ
た。「物薄而情厚」の意味
は読んで字の如くである
う。

私が松山支店に勤務して
いた頃のことである。氏夫
妻達が宇部市に住む長男の
家に行く途中、松山で一泊
して是非君とゆくり話し
たいので宿の手配をして欲
しいとの葉書を買った、勿
論委細心得てその晩は更く
るまで大いに語り合ったこ
とであった。そのときに私
に下さったお土産が「柿」
であった。氏がいうに「こ
の柿は家の庭に熟れていた
ものじゃ君にも喰べて貰う
」と思つて持つて来た。金で
買った物は土産にはなら
んと、五、六個の握ぎた
ての柿を柿色の柿の実に文
字通り柿色の柿に光ってい
た。「物薄而情厚」を実行
する氏の勇氣が頼母しく嬉
しかった。

氏はまた、友人との付き
合ひで「金をかけて特別の
馳走などすればいい」と
いつた。それは友を呼ん
だとき、特別を馳走をする
と次に呼ばれた友の方が
そのお返しをしなければ
ならなくなる。そのときは
前のときよりも、もっとこ
馳走を多くしたいと思うの
は人情である。このような
ことが双方に繰返されては
友人として永いお付き合い
は出来なくなつて、つまりは
と折紙がつけられている。

友を失ふことになる。ご馳
走とは「心」である。と
私が田野支店に勤務の頃
或る日の夕刻氏から電話が
かかって来た。「今晚不都
合でなければ夕食を飯べに
来ないか」とのことであつ
た。私は一瞬躊躇したが喜
んでお伺ひすると返事をし
た。さて何か手土産を……
と思つたが結局何も持つて
行かないことにした。待ち
かねていたように夕餉の膳
についた。私の他には誰も
来ていない、氏が「晩酌を
やるうか」といので、「や
りましよう」というと早速
奥さんが畑をして来た。普
段はあまり酒を嗜まない氏
も盃を傾けた。温い鍋物を
三人でつきながら歓談し
た。小さい鉢子を、三本
空けた頃か？、氏は「もつ
と飲むかよ」といふ、私は
「もう結構です」「そうか
よ、そんならもう沸かさ
せよ」といつて奥さんにも
追加は命じなかつたと思つ
たが後のまつてであつた。
酒が済んで飯になつた。
「僕は近頃玄米飯をやつて
いるが君は飯べたことがあ
るか」といふので私も戦前
暫らく飯べたことがあり
「それはなつかしい、私に
もその黒飯を下さい」とい
つたら奥さんがうんと恐縮
しながら茶碗に半分程盛つ
てくれた。義理にも美味い
とはいえない代物である。
二杯目は白飯にした。氏は
白飯こそ粕飯であると考え
ている話であつた。食事
は弾ひ語と共に美味く頂
いたが私のために特別に眺
まられたご馳走があつたよ
うにも思われず、ご夫婦平
常の夕餉のようであつた。
ここにも氏の交友哲学の実
践を見。

また氏の経営する鶴藤村
製糸の製品の品質は日本一
と折紙がつけられている。

その藤村製糸が毎年二月頃「終業式」を行い新年度の酬が生産されるまで休業する。その終業式は会社の全役職員が参列していはば一年の締めくくりをする有意味な式典である。式後全従業員と共に盛大な懇親懇親労働会が催されるのが例のようであった。

或日、氏が田野支店の窓口に來られた。

「来る二十八日に会社の終業式をやりたいと思つてゐるが、支店長、都合が悪くなければ出席してくれるか、無理してはいかんぜよ、君の本業に差支えなければのこと」と、私は早速予定表を見た上で「是非出席させて欲しい」といつた。「そうか、そんなら更めて後から案内状を上げ、但し代理出席はいかんぜよ、代理が来るようだったら來て貰ふ方がええ、知事にも日銀の支店長にもそのようにいつてある。それからも一つ、手ぶらで來てよ……」といつて帰つて行つた。

当日は勿論「手ぶら」で出かけた。知事や日銀の支店長をはじめ沢山の來賓の顔も見た。

私は思った。これらの人々もみんな「手ぶら」で來たのであろうか。考へてみると成程受付けられないものもなかつた。でも帰りには何か記念品を頂いたように記憶する。

私も「ハガキ」を可成りの枚數書く、氏は私よりも沢山書いていた。或とき氏は私にこういつた。

「文字は上手に越したことはあるまいが、あまり上手過ぎていいかん。殊に手紙の字は上手より下手の方がよい」と更に「君の字は手紙の字にポツリジヤ」といつて阿々大笑了。

手紙の字があまり上手だったら返事が來ない。永い交誼を続けるには下手な字が一番よい……と、また笑つた、それは私の字に対する想めもあるうが、これま

氏人生哲学の一つであ

つた。話は少し外れるが中
は手紙を貰ったら必ず二、三
四時間以内に返信を書くこ
とを信条としていた。
その外坂本さんにはずい
分と多くを教えられた。こ
のように氏とはほんとうに
親しく人間のお付き合いを
させて頂いたが高銀への預
金は全々ノーであった。こ
にも氏の面目躍如たるもの
があったと今になって思
う。

もし高銀と取引があった
ら私は氏と対等の立場で話
もできずその交友は浅かつ
たかも知れない、と思うこ
の頃である。

時雨来て
またしぐれゆく映の里

自衛官合格 おめでと

航空曹長▽溝渕城児(庵
谷) 陸上自衛官▽三谷馳
(西峰) 上村学(穴内) 航
空自衛官▽吉川信美(高
須) 海上婦人自衛官▽北窪
美恵(岩原) 陸上婦人自衛
官▽森下まゆみ(磯谷)

編集後記

▼弥生三月学校は別れの
季節です。広報が出るころ
は、中学校、続いて小学
校、いつ頃から始まったの
か、町内のある小学校で
は、卒業して行く子供達に
証書とともに、一人一人の
子供に校長先生から、激励
や、その子達の思い出など
の言葉をそえて渡していま
す。言葉をかけたとたん
に、子供達の目がパツと輝
いたように思えました。小
規模校ならではの卒業式で
す。

この号で私も二年生に進
級する気持で頑張つて新し
い意欲で広報編集に取り
組んで行きます。よろし
く。

(石川)



(石川)